

収入を聖別する

(Ⅱコリント9・7)

一、献げものによって

教会の集会では、多くの場合に献金の時間があります。献金は、私たちにとって礼拝の一部です。また、教会の活動は私たちの献げものによって支えられています。「だれかが献げるだろう」ではなく、自分が献げることによって、教会の活動は続いています。教会といえども、毎年予算が組まれ、予算に沿って運営がなされています。したがって、予算が満たない場合は、必要が満たされるように祈ることも然る事ながら、多くの場合に、それを知っただれかが穴埋めとしての献金をする事になります。それは、あまり喜びを感じられない献金ですが、仕方がありません。

二、心で決めたとおりに

みことばを見てまいりましょう。コリント人への手紙第二九章7節です。
「二人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださるのです。」とあります。
献金について、私は救われてからずっと考えてきました。結果、このみことばこそ、イエス・キリストを信じる私たちが献げものについて考える際に適切

な言葉である、と受け止めています。

旧約時代のイスラエルは、律法に従って、人々が神に献げる十分の一を献げものが、幕屋で、後に神殿で主の務めに当たる祭司やレビ人の活動費・生活費に充てられていました。と言いますのは、祭司やレビ人は主の務めのために聖別された(Ⅱ神に取り分けられた、の意味)人たちであって、相続地を持たず、また一般の仕事にも携わっていません。民衆が十分の一を献げなければ、祭司やレビ人は貧しくなり、生活ができません。になりました。

第二神殿時代のことですが、ネヘミヤ記に次のような記述があります。(ネヘミヤ13・10)「12また私は、レビ人の分が支給されていなかったために、務めに当たるレビ人と歌い手たちが、それぞれ自分の農地に逃げ去っていたことを知った。私は代表者たちを詰問し、「どうして神の官が見捨てられているのか」と言った。そして私はレビ人たちを集め、元の職務に就かせた。ユダの人々はみな、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一を貯蔵庫に持つて来た。」と。

そういう流れで、マラキ書を見ると、見えなかつたものが見えてまいります。総督ネヘミヤと預言者マラキは、ほぼ同時代の人たちです。ネヘミヤのほうに、数十年前の人です。預言者マラキは神の御意思を語りました。(マラキ3・

8)「10人は、神のものを盗むことができらるうか。だが、あなたがたはわたしのものを盗んでい。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちがあなたのものを盗んだでしょうか』と。十分の一と奉納物においてだ。あなたがたは、甚だしくのろわれている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民のすべてが盗んでいる。十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。――万軍の主は言われる――」

「わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。」と。
では、イエス・キリストを信じる私たちは、教会においてどれくらい献げたから良いのでしょうか。基本は自由です。その場合の自由とは、(いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりに)「献げる自由です。ですが、基準を知って、自由に献げるのが良いと思います。基準とは何なのでしょ

うか。十分の一です。十分の一は、元々は聖書の舞台となった古代オリエントで行われていたことです。「私(たち)はあなたのしもべです」と告白する場合、主人の側に財産の十分の一を献げました。これが、聖書の舞台となった古代オリエントにおける常識でした(創世記14・17)、「20、28・17)22)。

三、収入を聖別する

旧約時代、親は子供にどのようにして、神を畏れ、神を愛することを教えたのでしょうか。まずは、子供に律法を教えることでした。すなわち、神を愛し、神に礼拝を献げ、神からの諭しを求めように教えました(申命記4・10)。その中には、十分の一を聖別する教えが含まれていました。

献金は、(いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい)とありますように、自由です。ですが「自由」というのがなかなかの「くせもの」でして、私共を悩ませます。毎回迷うからです。ならば、「収入の十分の一は献げます」と、子供の頃から決めてしまえばと、やがて大人になり、給料をもらっても、十分の一が負担でなくなりません。では、年金生活の方はどうしたらよいでしょうか。年金は収入ではないと、私は考えますので、「月定献金」として献げられることをお勧めします。どうしたら主が喜ばれるか、と考えつつ、祈りつつ、それこそは(いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりに)する、と決められたらよろしいです。箴言に(箴言3・9)「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。」とあります。自分に与えられたものを聖別しますと祝福されます。「お金を大切にしつつ、お金に縛られない」という祝福にあずかります。